

三重県経済の動向

No.483

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しており、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：一部で弱い動きがみられるものの持ち直している

10月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比3.7%減で15か月連続の減少。10月のコンビニ販売額（速報）は0.4%の微減で、前年との比較が可能な昨年7月以降で初めての減少。家電大型専門店販売額は5.4%減で4か月ぶりの減少。ドラッグストア販売額は6.8%増で31か月連続の増加。11月の乗用車販売台数（普通＋小型＋軽）は2.0%増で13か月連続の増加。普通（△3.2%）が3か月連続の減少、小型（△7.2%）は2か月連続の減少となったが、軽（＋15.8%）が8か月連続の増加。10月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は1.7%増で2か月ぶりに増加、3か月後方移動平均では3か月連続の増加。

住宅建築：一服

10月の住宅着工戸数は、前年比13.6%減で2か月ぶりの減少。3か月後方移動平均では8.3%の減少。持家（△1.8%）が2か月連続の減少、貸家（△24.4%）と分譲（△10.7%）が2か月ぶりの減少。床面積は3か月連続の減少。

設備投資：持ち直し

10月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比30.2%減の2か月連続で減少したが、3か月後方移動平均では4か月連続の増加。11月の貨物自動車販売（普通＋小型＋軽）は、前年比0.7%増と3か月ぶりに増加したが、3か月後方移動平均では7か月ぶりの減少。普通貨物（＋4.4%）と小型貨物（＋1.4%）が3か月ぶりの増加、軽貨物（△0.4%）は2か月連続の減少。

公共工事：横ばい

11月の公共工事請負件数は前年比5.7%増で2か月連続の増加。請負額は、17.8%増で2か月連続で増加したものの、年度累計では2.5%減と3か月連続の減少。増加の主な要因は、県土整備部（県）において「二級河川志登茂川」、「宮川流域下水道」関連、四日市市（市町）において「中央緑地新体育館」関連、三重県環境保全事業団（その他）において「廃棄物処理センター（解体撤去）」関連の大型工事があった影響等による。

輸出入：上向き兆し

10月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）＋津港）の通関輸出額（速報）は、前年比2.4%増で2か月連続の増加、3か月後方移動平均では5か月ぶりの増加。主要港である四日市港は2.7%増で2か月連続の増加。四日市港では、品目別で自動車、半導体等電子部品などが減少したものの、石油製品、科学光学機器、鉱物性タール及び粗製薬品などが増加。県内2港の通関輸入額は、14.6%増と4か月連続の増加。

生産活動：回復

9月の鉱工業生産指数（季調済）は129.7と前月比（△7.4%）では3か月ぶりに低下したものの、原指数は142.6と前年比（＋3.7%）では6か月連続の上昇。業種別に前月比をみると、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業、金属製品工業などが低下したが、生産用機械工業、化学工業、その他工業などが上昇。在庫指数（季調済）は112.4で、前月比7.7%上昇と2か月連続の上昇。

雇用情勢：高水準続く

10月の有効求人倍率（季調済）は1.68倍で、前月比0.04ポイント上昇、54か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.51倍で、前月比0.06ポイント上昇。新規求人数（原数値）を産業別にみると製造業、宿泊業、飲食サービス業などで前年比微減となったが、建設業、運輸業、郵便業、小売業、社会保険・社会福祉・介護事業などが大幅に増加。正社員有効求人倍率（原数値）は1.09倍（前年差＋0.20ポイント）で前年を上回って推移し、4か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

- ・ 井村屋グループ(株)（津市）は11月15日、東証と名証の1部への昇格を発表。2017年9月中間決算は、売上高、営業利益、純利益ともに上半期で過去最高に。昇格にあわせた増資による調達資金は、同月1日に取得した隣接する工場の「あずき加工の基幹工場」への改装・製造設備増設費等に充て、関連商品の生産拡大を目指す。
- ・ 大和ハウス工業(株)（大阪府）は11月10日、東急不動産(株)、日立キャピタル(株)、(株)ecoプロパティーズ（東京都）との4社で建設計画のマルチテナント型物流施設「(仮称)桑名プロジェクト」の着工を発表。建設地は、東名阪自動車道「桑名及び桑名東I.C.」に近接し、名古屋市内や名古屋港への交通便利性に優れた地で、将来的には、東海環状自動車道や新名神高速道路の全線開通により、さらなる利便性の向上が期待される。2019年春竣工予定。